

金賞

高校



## 自然に奪われ、祝われて

自然の猛威によって大切な人、大切な故郷を失った人々の悲しみは、どんなに時間が経ってもどんなことをしようとも完全には無くならないであろう。しかし、幸せを感じることで、ほんの少しだけ悲しみが軽くなるのではないか。人に祝ってもらう瞬間は誰でも幸せな気持ちになる。美しい自然に囲まれて、誕生日やちょっとした記念日、結婚式などを祝ったり祝われたりすると、きっと悲しみよりも幸せの方が大きくなるはずだ。

水野 誉也

みずの もとや

千葉県立市川工業高等学校 建築科

この作品のプレゼンテーションを目にした時、本当に高校生の作品なんだろうかと素直に思った。物語を描くように建物へのアプローチが計画され、実際にこの足でその地を歩いているかのような錯覚にさえ覚える。スケッチと着彩により震災の悲しみの記憶とは真逆の美しい世界が表現されている。震災の事を永遠に忘れぬよう慰霊碑や祈りの空間とするのではなく、祝いの空間としたことが作者独特の慰霊の方法なのであろう。悲しみを幸せを感じることによって軽くしてあげたいその発想そのものがこの作品を美しいものへと変えているのだと思う。コンクリート造と木造を巧みに使い分け、構造にまで考

えが及んでいることが完成度の高さを示している。力強いコンクリートの壁は自然に開かれた形状で配置され、軽やかな木造の屋根がそれを包み込む。屋根の頂点が震災時の津波の最高高さを表しているという記憶の刻み方が何ともさりげなくて好感がもてる。

作者が大学で建築をより学んだ後に発表する卒業設計はどんなものになるのだろう。今から楽しみで仕方ない。



審査員：伊藤茉莉子

自然の猛威によって大切な人、大切なもの、大切な故郷を失った人々の悲しみは、どんなに時間が経ってもどんなに悲しむをしようも完全に消え去らないであろう。しかし、幸せを感じる人、はるかに少いけれども悲しみが軽くなる人はいる。その幸せを感じる建物が「祝いの場」だ。人に祝ってもらう瞬間は誰でも幸せな気持ちになる。美しい自然に囲まれて、誕生日やちょっとした記念日、結婚式などを祝ったり祝われたりする、さっと悲しみよりも幸せの力が大きくなるはずだ。そんな幸せを感じている時に訪れる自然の風景は、まるで祝福しているかの様である。

2011年のあの日から7年経つ。今もお東北では復興が進められている最中だ。わたしはそんな東北の人々のために何か心の支えとなる建築を作りたいと考えた。

